【土木計画学研究・講演集 No.18(2) 1995年12月】

交通計画プランナーの視点にもとづく圏域構造に関する将来ビジョンの策定*

Scenario Writing for Transportation Planning*

村上真吾** ・根本敏則***・河野雅也****・樗木武*****
By Shingo Murakami, Toshinori Nemoto, Masaya Kawano, Takeshi Chishaki
北部九州圏都市交通計画協議会事務局******
Secretariat for North Kyushu Transportation Planning Board

1．はじめに

北部九州圏都市交通計画協議会では、平成５年度より第３回目のパーソントリップ調査を実施している。パーソントリップ調査そのものの調査手法や解析手法については既に体系化されており、定量的な検討についてはほぼ充分といえる。

しかしながら、計画目標年次が20年後と長期にわたる場合には、定量的な検討の他に、交通の発生パターンに影響を及ぼすような国内外の社会経済情勢を予測・展望するとともに、将来の交通需要を決める個人の価値観の変化などについても考慮できるような定性的な分析にもとづいて交通計画の方向性を定めることが望まれる。

従来においても、定性的分析の必要性は常に認識されていたが、過去のパーソントリップ調査の中では、たとえば「都市圏構造の検討」として位置付けられ、交通計画とは密接な関係を持つまでには至らない状況であった。そこで今回の調査にあたっては、「交通計画の役割を明示的に書き込んだ圏域の将来ビジョンのシナリオをデルファイ法を用いて改善していく」という新たな試みを導入することで客観的な合意の形成を図り、交通計画の策定において検討すべき諸課題を明らかにすることを企図した。

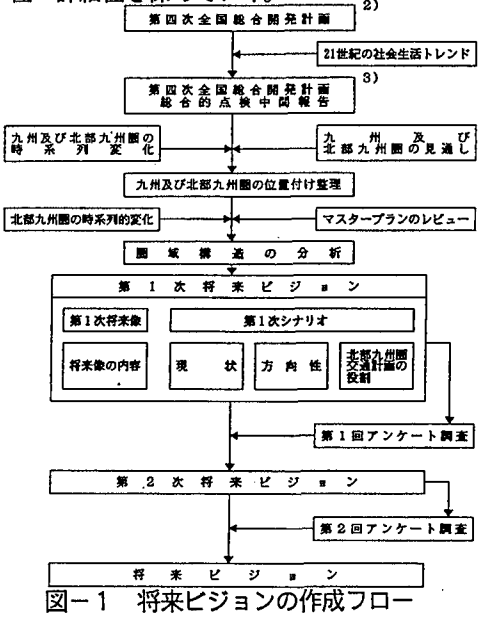
*キーワード　総合交通計画，計画手法論
**正会員 北九州市都市計画局計画部交通計画課
(〒803 北九州市小倉北区城内1-1)
***正会員 工博　福岡大学教授 経済学部
(〒814-01 福岡市城南区七隈8-19-1)
****正会員 工博 西日本工業大学教授 土木工学科
(〒800-03 福岡県京都郡苅田町新津1633)
*****正会員 工博　九州大学教授 建設都市工学科
(〒812 福岡市東区箱崎6-10-1)
******　(〒812 福岡市博多区博多駅東2-8-26)

2．基本的考え方

今回の将来ビジョンの策定にあたっては、将来の社会情勢の変化要因，また開発計画等の主体間の調整をも考慮し、これらを解決できる方法としてデルファイ法[1)]の導入を基本とした検討手法を採用した。これにより作成者側の理念や偏見に大きくとらわれることなく、また、作成者側の不足している知識や価値観を得ることにより、一定の合意形成を図りつつとりまとめた。

将来ビジョンを策定する上での基本的な考え方および前提条件は、以下のとおりである。

- 北部九州圏の将来ビジョンを策定する。
- 将来像を実現するためのシナリオを書く。
- 将来像，シナリオは修正を前提として交通計画策定者が作成する。
- アンケート調査により将来像，シナリオの整合性・詳細性を深めていく。



図－１　将来ビジョンの作成フロー

3．策定方法

将来ビジョンの作成フローを図－１に示す。

(1)７つの将来像の設定

北部九州圏がめざすべき21紀初頭以降の将来像として、第四次全国総合開発計画総合的点検中間報告，九州および北部九州圏の位置付けの整理，圏域構造の分析等を踏まえて、以下のような７つの将来像を設定した。

- めざすべき方向の視点としてまず、周辺地域を牽引していく一つのまとまりとして、圏域全体と他地域との関係を考えた。その結果、以下のようなキーワードで圏域の将来像をとらえた。

活力ある発展を目指す北部九州圏

○東アジア圏域との交流の中心的役割を担う北部九州圏

○西南日本地域との連携の強化

- 次に個人の価値観の多様化等にみられるように、個人レベルへの対応の重要性が今後ますます高くなることから、個人レベルと地域との関連性の視点に立って考えた。その結果、以下のようなキーワードで将来像をとらえた。

豊かさ，ゆとりの実現を目指す地域社会

○高齢化に対応する地域社会の形成

○多様化する個人の価値観への対応（個性豊かな文化の創造等）

- 最後に、ある意味では、相反する上記２つの考え方の中間的位置付けの視点に立って、下記の将来像を考えた。

○都市の競争と協調による魅力ある圏域の創造

○環境の保全と創造

○活力ある産業社会づくりの展開

以上より、北部九州圏の将来ビジョンは７つの将来像でとらえることとし、それらの相互関係を示すと図－２のとおりである。

(2)第１次将来ビジョンの作成

まず、７つの将来像についての内容(骨子)を圏域構造の分析等を基にとりまとめた。次に、各々の将来像を実現するためのシナリオを下記の方法で作成した。

①各々の将来像について連想するキーワードをブレーンストーミングによって収集する。

②各々の将来像についての現状を既存資料より整理し、かつ収集した各々の将来像のキーワードを方向性，北部九州圏交通計画の役割（ハード，ソフト）およびその他施策の３つの視点で分類する。

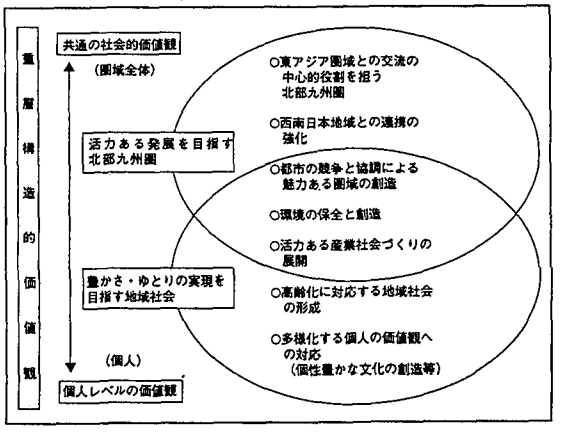
③前記３視点で分類したキーワードを更に関連する項目毎で分類し、キーワード集を作成する。

④キーワード集を基にして、下記の視点よりシナリオを作成する。

現　状：各々の将来像に係わる北部九州圏の現状を過去からの経緯等を踏まえて整理する。

方向性：各々の将来像を実現するための望ましい展開の方向性を記述する。

交　通：各々の将来像の望ましい方向性を実現する
計　画　ための北部九州圏交通計画の役割を施設の
の役割　整備（ハード）および運用（ソフト）の両面から検討する。



図－２　北部九州圏における７つの将来像

(3)第１回アンケート調査の実施

第１次将来ビジョンを基に、有識者へのアンケート調査を実施した。(表－１）調査対象者は、学識経験者，協議会委員，シンクタンクおよび文化人とし、各種分野と地域性のバランスを考慮して選定した。

表－１　第１回アンケート調査項目

項　目	内　容
「将来像の内容」について	・内容についての評価（重要な点で見落としがあるか，ないか） ・具体的意見の収集
「現状」について	・現状についての評価（現状認識に誤りがある，ない） ・具体的意見の収集
「方向性」について	・方向性についての重要性，実現性の評価 A. 重要であり，実現は容易である B. 重要であるが，実現は困難である C. 重要でない
「交通計画の役割」について	・キーワードの重要性，実現性の評価（上述のA, B, Cによる評価） ・追加キーワードの収集（重要であり，実現は容易であるキーワード）
「交通計画以外の施策」について	・キーワードの重要性，実現性の評価（重要であり，実現は容易であるか否かの評価） ・追加キーワードの収集（重要であり，実現は容易であるキーワード）

(4)第２将来ビジョンの作成

質問事項の各項目の評価，意見に基づき論理構成のチェックを行った。チェックは大幅な修正がある場合には、設問項目の回答をベースに修正を行い、そうでなければキーワードをベースに追加・補強を行った。交通計画の役割の修正フローを図－３に示す。

(5)第２回アンケート調査の実施

第２回アンケート調査では、前回の調査で重要性が高いが、実現性は低いと判断された交通計画の役割のキーワードについての再質問および修正シナリオの詳細性を更に深めるために新たに地域連携軸に関する質問を設定した。（表－２）

分析結果の一部を図－４に示す。

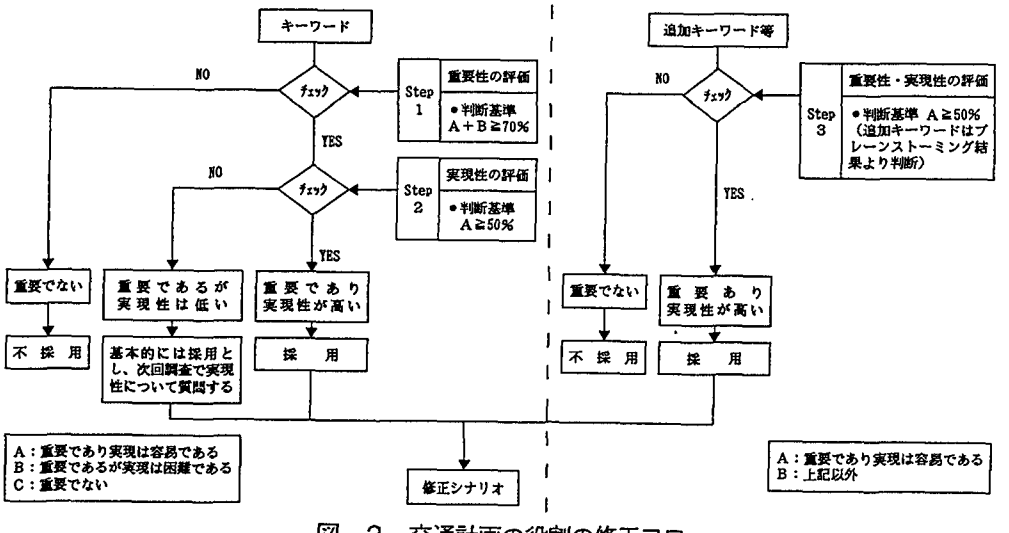
表－２　第２回アンケート調査項目

項　目	内　容
交通計画の実現方策に関する質問	・重要性，実現性の再評価 ・実現する上での課題について（技術，制度，財政等）
地域連携軸に関する質問	・交流，連携を強化すべき軸とその機能について

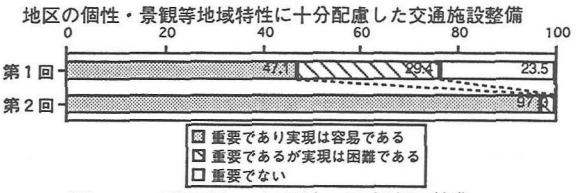
(6)最終将来ビジョンの作成

①交通計画の実現方策について

- 第２次将来ビジョン作成時の交通計画の役割の修正と同様の方法で再評価を行う。
- 再評価の結果，重要性が70%以上で、かつ実現性が50%を下回るものは、実現する上での課題を参考にしつつ修文を行う。



図－３　交通計画の役割の修正フロー



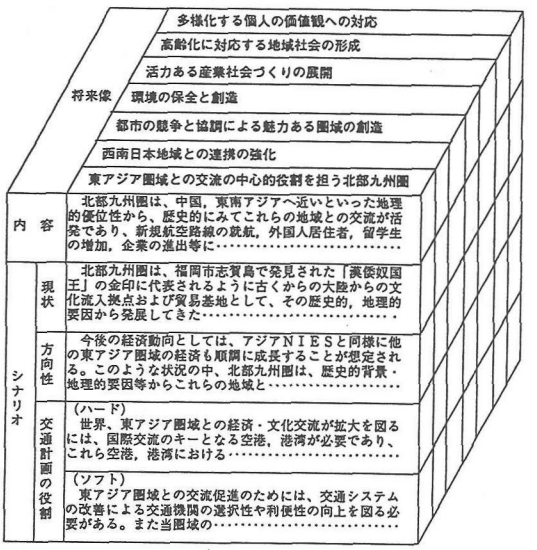
図－４　重要性・実現性の再評価（例）

②地域連携軸について

- アンケート調査結果を基本としつつ、現状における地域間の結びつき、計画・構想等による分析を踏まえて、地域連携軸として強化すべき軸の抽出を行う。
- 該当するシナリオの中に地域連携軸についての記述を加筆する。

③将来ビジョン作成

- 修正したシナリオ相互間の整合性・詳細性を図り、最終の将来ビジョンを作成する。（図－５）



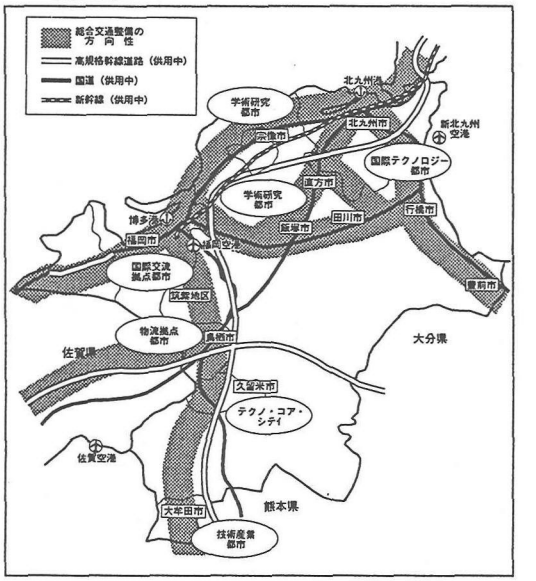
図－５　北部九州圏の将来ビジョンの概念図

４．おわりに

本調査では、都市圏構造の検討について定性的な分析に基づいて交通計画の方向性を定めるといった点から、デルファイ法を基本とした検討手法を採用し、北部九州圏の将来ビジョンのシナリオを描くといった新たな試みを行った。

その結果、客観的な合意形成を図りつつ、より整合性・詳細性のあるシナリオが作成でき、かつ、将来ビジョンからみた総合交通整備の方向性（図－６）を示すことができた。

今後の課題として、まず、需要論的アプローチであるパーソントリップ調査と政策論的アプローチである将来ビジョンをどのように結びつけるかが挙げられる。両者の有機的なリンケージ方法を、次回の調査体系への提言を含めて検討する必要がある。次に、将来ビジョンの実現化へ向けての問題がある。今回提案した将来ビジョンは戦略的なものであり、これを戦術的なものへと移行させるロジックの確立が必要である。また、将来ビジョンの策定方法は、可能な限り合理性，客観性を追求したために、煩雑なものとなってしまった。策定方法の汎用性を高めるためには、方法論自体の簡素化も残された課題の１つである。



図－６　将来ビジョンからみた総合交通整備の方向性

参考文献

1)新井他：シナリオに基づくデルファイ型調査手「ＳＩＭＰＬＥ」の開発，計画行政第13号，1984

2)国土庁計画・調整局：第四次全国総合開発計画 1987

3)国土庁計画・調整局：第四次全国総合開発計画総合的点検中間報告，1993